

「町田市生涯学習推進計画 2019-2023」に係る  
2022年度事業実績の報告について

生涯学習部では、2019年3月に「町田市教育プラン2019-2023」で定める生涯学習施策を具現化するためのアクションプラン（行動計画）として、「町田市生涯学習推進計画2019-2023」を策定しました。

生涯学習推進計画に定めた取組を着実に推進するため、年度ごとに達成状況を確認することとしていましたが、この度2022年度の事業実績がまとまりましたので、報告いたします。

- 1 取組項目      39件（うち15件は、「町田市教育プラン2019-2023」に掲げる重点事業）
  
- 2 評価方法      5段階評価  
各取組項目の活動指標ごとに、下記の達成状況の基準によって評価しており、「2023年度町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（2022年度分）」に準じています。

評価		達成状況の基準、考え方
A	計画以上に目標を達成した	効果的で優れた取組を行い、年度目標を上回って達成し、最終年度の目標達成に向けて大きな成果があった。
B	目標を達成した	効果的な取組を行い、年度目標を達成し、最終年度の目標達成に向けて成果があった。
C	おおむね目標を達成した	年度目標には達しなかったものの、効果的な取組を行い、最終年度の目標達成に向けて一定の成果があった。
D	目標に達しなかった	取組を行い、一定の成果はあったものの、年度目標を達成することができず、最終年度の目標達成に向けて課題や問題点があった。
E	目標を大きく下回った、実施できなかった	取組を行わなかった、または行ったものの成果があがらなかった。 大きな課題や問題点があり、取り組むことが困難で滞っている。

### 3 意見聴取

報告にあたり、次の附属機関等から意見を伺い、内容確認を行いました。

- ・ 町田市生涯学習審議会
- ・ 町田市文化財保護審議会
- ・ 町田市生涯学習センター運営協議会
- ・ 町田市民文学館運営協議会
- ・ 町田市立図書館協議会

### 4 市民への公表

町田市ホームページに掲載します。

町田市生涯学習推進計画 2019 - 2023

事業実績（2022年度分）報告

2023年8月

町田市教育委員会

# 目 次

1	事業実績の報告について .....	3
2	達成状況の評価基準 .....	4
3	評価の対象となる取組.....	5
4	2022 年度に実施した取組の事業実績	
	施策 1 家庭教育を支える環境を整備する	
	取組 1-1～1-4 の事業実績.....	6
	施策 2 学びのきっかけとなる機会を提供する	
	取組 2-1～2-10 の事業実績.....	10
	施策 3 学習を“広げる・深める”を支援する	
	取組 3-1～3-8 の事業実績.....	20
	施策 4 学習成果を活かす機会を充実する	
	取組 4-1～4-8 の事業実績.....	28
	施策 5 学習を支える環境づくりを進める	
	取組 5-1～5-9 の事業実績.....	36

## 1 事業実績の報告について

### (1) 目的

町田市教育委員会では、2019年3月に「町田市教育プラン（以下、「教育プラン」という。）2019-2023」で定める生涯学習施策を具現化するためのアクションプラン（行動計画）として、「町田市生涯学習推進計画（以下、「生涯学習推進計画」という。）2019-2023」を策定しました。「生涯学習推進計画 2019-2023」は、教育プランで定めた「重点事業」を中心に39の取組を定めています。

町田市教育委員会では、本計画に定めた取組を着実に推進するため、達成状況を年度ごとに確認し、事業実績を毎年度公表します。

### (2) 新型コロナウイルス感染症による影響について

町田市教育委員会では、2020年以降、新型コロナウイルス感染症対策として、所管する生涯学習施設を休館したり、イベント等を中止したりするなど、多くの対策を講じてきました。今回評価を行った取組の中にも、影響を受けた取組が多くあります。

2022年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を中止・延期をするという判断を余儀なくされたものもあり、一方で、感染リスクを低減させる対策を講じ、様々な工夫を重ねたうえで、事業を実施できたものもあります。

今後も、「生涯学習推進計画 2019-2023」を基本として取組みながらも、新型コロナウイルス感染症対策も含め、生涯学習を取り巻く環境の変化を十分に注視して取組むとともに、目標設定や取組に対する評価について様々な検討を行う必要があります。

## 2 達成状況の評価基準

各取組の評価は、活動指標ごとに、下記の達成状況の基準により行っています。

評価		達成状況の基準、考え方
A	計画以上に目標を達成した	効果的で優れた取組を行い、年度目標を上回って達成し、最終年度の目標達成に向けて大きな成果があった。
B	目標を達成した	効果的な取組を行い、年度目標を達成し、最終年度の目標達成に向けて成果があった。
C	おおむね目標を達成した	年度目標には達しなかったものの、効果的な取組を行い、最終年度の目標達成に向けて一定の成果があった。
D	目標に達しなかった	取組を行い、一定の成果はあったものの、年度目標を達成することができず、最終年度の目標達成に向けて課題や問題点があった。
E	目標を大きく下回った、実施できなかった	取組を行わなかった、または行ったものの成果があがらなかった。 大きな課題や問題点があり、取り組むことが困難で滞っている。

### 3 評価の対象となる取組

<p>施策1 家庭教育を支える環境を整備する</p> <p>取組 1-1 保護者向けの学習機会の充実【◇】</p> <p>1-2 家庭教育支援の担い手育成・活動支援【◇】</p> <p>1-3 保育室を利用した家庭教育支援事業の促進</p> <p>1-4 親子でことばに触れる機会の充実</p>
<p>施策2 学びのきっかけとなる機会を提供する</p> <p>取組 2-1 学習情報の発信力の強化【◇】</p> <p>2-2 歴史・文化資源等を活用した出張事業の推進【◇】</p> <p>2-3 子ども読書活動の推進【◇】</p> <p>2-4 学校図書館との連携強化【◇】</p> <p>2-5 生涯学習施設の利用促進</p> <p>2-6 読書普及事業の充実</p> <p>2-7 シニア世代向け事業の充実</p> <p>2-8 障がい者サービスの充実</p> <p>2-9 図書館資料による情報提供機会の充実</p> <p>2-10 「町田ゆかりの作家」紹介事業の充実</p>
<p>施策3 学習を“広げる・深める”を支援する</p> <p>取組 3-1 地域の課題解決に向けた学習支援【◇】</p> <p>3-2 町田の歴史情報の提供【◇】</p> <p>3-3 「文学の扉」事業の推進【◇】</p> <p>3-4 文化財の維持・保護・復旧の推進</p> <p>3-5 文化財の公開・活用の充実</p> <p>3-6 展示事業の充実</p> <p>3-7 講座・講演会事業の充実</p> <p>3-8 レファレンスサービスの充実</p>
<p>施策4 学習成果を活かす機会を充実する</p> <p>取組 4-1 市民提案型事業の推進【◇】</p> <p>4-2 協働による研究・発表の推進【◇】</p> <p>4-3 地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】</p> <p>4-4 学習成果の発表機会の支援</p> <p>4-5 生涯学習ボランティアバンク事業の推進</p> <p>4-6 障がい者の学習成果を発表する場の充実</p> <p>4-7 図書館運営の地域協働化の促進</p> <p>4-8 市民の文学活動への支援</p>
<p>施策5 学習を支える環境づくりを進める</p> <p>取組 5-1 支援が必要な人への学習機会の提供【◇】</p> <p>5-2 本と出会う場所の創出【◇】</p> <p>5-3 文化財の保存と活用環境の整備【◇】</p> <p>5-4 歴史・文化資源の調査・研究・保存</p> <p>5-5 図書館利用者の利便性の向上</p> <p>5-6 地域資料の活用の推進</p> <p>5-7 市民のニーズに合った図書館事業の実施</p> <p>5-8 町田の文学の継承</p> <p>5-9 文学財産の保存</p>

◇…教育プラン重点事業

#### 4 2022年度に実施した取組の事業実績

◇・・・教育プラン重点事業

■取組1-1 保護者向けの学習機会の充実【◇】	生涯学習センター
-------------------------	----------

事業概要	保護者を対象に、子どもの年齢や成長に応じて生じる悩みや問題の解消につなげる学習機会を提供します。実施にあたっては、保護者をはじめ学校、PTAなど幅広くニーズを調査し、事業内容に反映していきます。				
これまでの取組	0歳児・1歳児とその保護者、妊婦を対象とした「まなびのひろば事業」、乳幼児期から思春期までの保護者向けの学習講座を定期的実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①まなびのひろば*延べ参加者数		698人	880人	
	②家庭教育講座延べ参加者数		459人	570人	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	保護者の学習機会の把握		アンケート等によるニーズ調査・事業内容への反映		
	各種学習事業の実施				
年度目標 (指標①)	730人	760人	800人	840人	880人
年度目標 (指標②)	480人	500人	520人	540人	570人

\*まなびのひろば：生涯学習センターで実施する市内在住の0歳児・1歳児とその保護者、または妊婦を対象とした子育てに関するひろば事業。手遊びやスキンシップ遊び、絵本の読み聞かせ、保護者同士の情報交換などを行う。

#### <2022年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	D 目標に達しなかった
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、引き続き参加人数を制限しての実施となったことから、延べ参加者数（親）は209人と目標を達成しませんでした。</li> <li>まなびのひろばとして、母親と子が参加する「きしゃポッポ」、父親と子が参加する「パパと一緒にきしゃポッポ」、家庭教育支援の担い手育成事業の修了者が企画・運営する「スマイルきしゃポッポ」を合計44回実施しました。また、「まなびのひろば」で実施しているスキンシップ遊び、うた遊びを紹介する動画3本を、子育てサイトに公開し、3月末時点までで延べ803回のページアクセスがありました。</li> </ul>
達成状況 (指標②)	C おおむね目標を達成した
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、引き続き参加人数を制限して実施したため、延べ参加者数は497人となりました。</li> <li>家庭教育講座では、乳幼児から思春期までの保護者向け講座を合計29回実施しました。また、思春期の保護者向け講座は、アンケートによる保護者のニーズを反映し、全3回とも土曜日に玉川学園コミュニティセンターで実施しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会環境の変化やライフスタイルの多様化などに対応するため、引き続き保護者の意見を聴取し、事業内容に反映していく必要があります。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止のために行っていた参加人数等の制限について、社会情勢にあわせて緩和していく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>共働き世帯の増加などの社会環境の変化に対応するため事業の再構築を行います。</li> <li>講座終了後に配布するアンケートに加え、引き続きWEB上で回答できるアンケートフォームも活用して保護者のニーズを調査し、アンケート結果を参考にしながら実施内容に反映していきます。また、保護者の目線を取り入れるため、家庭教育講座の卒業生グループが企画・運営する講座を実施します。</li> <li>社会情勢の変化に応じて、なるべく多くの方が参加できるように、参加人数の制限等を適宜見直していきます。</li> </ul>



■取組1-2 家庭教育支援の担い手育成・活動支援【◇】	生涯学習センター
-----------------------------	----------

事業概要	まなびのひろば事業や子育て講座などの学習機会を地域で展開できるよう、担い手を育成します。実施にあたっては、関係機関と連携しながら、ニーズの把握、育成プログラムや修了後の活動拠点などの検討を進め、家庭教育支援の充実を図ります。				
これまでの取組	家庭教育支援の担い手を育成する事業として「家庭教育支援学級」を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①担い手育成事業修了者数（累計）		31人	164人	
	②修了者が企画した学習事業数		3事業	5事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	育成プログラム及び活動支援手法の研究		担い手育成事業の実施 修了者の活動支援の実施		
	修了者が企画した学習事業（3事業）実施		修了者が企画した学習事業（4事業）実施	修了者が企画した学習事業（5事業）実施	
年度目標（指標①）	31人	62人	95人	129人	164人
年度目標（指標②）	3事業	3事業	4事業	4事業	5事業

## ＜2022年度の事業実績＞

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>担い手育成事業では、家庭教育講座修了者で構成されるゼミや、家庭教育支援の担い手育成事業を合計63回実施し、27人が新たに修了者となりました。修了者数は、2021年度までの92人とあわせて、累計119人です。</li> <li>修了者の継続的な活動を支援するため、保育室等の活動場所の提供及び、家庭教育支援講座の聴講の受け入れを行いました。活動場所の提供は15回、講座の聴講は15人の利用がありました。</li> </ul>
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	<ul style="list-style-type: none"> <li>修了者が企画した学習事業は「スマイルパーティ～スマイルママ親子ひろば～」「親と子のまなびのひろばスマイルきしゃポップ」「子育てサークルエンジョイタイム」「まあいっかと思える子育て～家と身体が整うヒント～（講座）」「子どもとの関わりにもっと絵本を～おとも楽しむ絵本～（講座）」の5事業でした。</li> <li>修了者の活動を活性化することを目的とした修了者同士の交流会を開催し、5団体15人の参加がありました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場復帰や再就職等のため、長期間の活動継続が難しい方が増えています。2年間で実施していた学級を1年間に短縮するなど参加しやすい事業を実施するとともに、活動を継続できるよう支援を行う必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活環境に変化が生じて、活動が継続できるよう、支援の見直しを検討します。</li> <li>多くの方が家庭教育支援の担い手育成事業や修了者としての活動に参加できるよう、各事業や支援を実施していきます。</li> </ul>

<b>■取組1-3 保育室を利用した家庭教育支援事業の促進</b>	生涯学習センター
-----------------------------------	----------

事業概要	子育て中の市民が親子向けイベントや講座により多くの参加機会を得られるよう、また自ら活動することができるよう、市民活動団体や市の各部署に働きかけを行い、生涯学習センターの保育室を活動の場とした家庭教育支援事業の促進を図ります。				
これまでの取組	保育室は、生涯学習センターが直接事業に使用するほか、ホールや学習室等で市民の学習活動がある際に補助的に利用されています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	保育室の年間施設利用回数		280回	380回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	情報収集 周知方法の 検討	検証	検証結果に基づく周知活動の見直し		
	市民活動団体への周知・市の各部署との調整				
年度目標	290回	300回	320回	350回	380回

<2022年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室を活動の場とした家庭教育支援事業について、まちだ子育てサイトやツイッター、町田市メール配信サービスによる情報発信を行いました。</li> <li>・家庭教育支援事業修了者の継続的な活動を支援するため、活動の場として保育室を提供しました。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、おやつ等飲食の一部制限を行ったうえで施設を提供しました。保育室の年間利用回数は208回（2021年度186回、2020年度151回）、利用人数は2,146人（2021年度1,730人、2020年度1,382人）といずれも2020年度以降、上昇していますが、目標値には達しませんでした。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場復帰や再就職等をした後でも働きながら活動を継続できるよう、多様な学び方を提供していく必要があります。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染状況に留意しながら、アフターコロナを見据え、施設の活用を図っていく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育支援事業修了者が自主的な活動を継続して行えるよう、活動場所として保育室の提供や活動継続のための支援を行います。</li> <li>・来館者や中心市街地を訪れた子育て世代に保育室を開放し、施設及び事業のPRを行います。</li> </ul>

<b>■取組1-4 親子でことばに触れる機会の充実</b>	文学館
-------------------------------	-----

事業概要	子どもたちの感受性を育むことができるよう、わらべ唄遊びや絵本の読み聞かせ、ことば遊びなどを通じて、コミュニケーションの基本・文学への入り口となる「ことば」に触れる機会を提供します。保護者にもその楽しさを体験してもらうことで、家庭での教育や親子のコミュニケーションに活かせる内容となるよう実施します。実施にあたっては、参加者のニーズを把握し、事業内容に反映していきます。				
これまでの取組	0～4歳児とその保護者を対象にわらべ唄や絵本の読み聞かせを行う「ちちんぷいぷい」、「2歳児あつまれ!」、「3・4歳児あつまれ!」を実施しています。また、3歳から小学生の子どもとその保護者を対象に、リトミックとことば遊びを取り入れた「クリスマスおたのしみ会」を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	乳幼児から小学生とその保護者を対象とした事業数		7事業	9事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	アンケート等による ニーズの把握		ニーズの事業への反映		
	各種学習事業 (7事業)実施		各種学習事業 (8事業)実施		各種学習事業 (9事業)実施
年度目標	7事業	7事業	8事業	8事業	9事業

<2022年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定例の乳幼児向けおはなし会「ちちんぷいぷい」「2歳児あつまれ!」「3・4歳児あつまれ!」や夏季企画展と連動した親子向けおはなし会「絵本ピクニック」「たけがみZOOのおはなし会」、保育付き事業「紙芝居・大人の時間」「絵本読み聞かせのコツを教えます」、小学生から一般までを対象とした「はじめてのお能体験」「百人一首かるた大会」など9事業を実施しました。</li> <li>・ 事業の実施に際しては、参加者同士の距離の確保、換気、検温や手指消毒を実施し、参加者が安心して参加できるよう配慮しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「絵本読み聞かせのコツを教えます」の参加者数が減少しています。近年の参加状況を踏まえて、事業の実施方法を検討する必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者のニーズを検証し事業の見直しを行います。</li> </ul>

■取組2-1 学習情報の発信力の強化【◇】	生涯学習センター
-----------------------	----------

事業概要	学習情報をより多くの市民に提供できるよう、町田市ホームページモバイル（スマートフォン版）の学習情報誌「生涯学習NAVI」の利用促進を図ります。さらに、他団体で発信している情報誌やホームページなどの情報発信媒体との連携を図り、情報発信力を強化します。				
これまでの取組	ホームページや「生涯学習NAVI」の内容を見直しました。また、学習情報に関するポータルサイトの構築に向けて検討しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①スマートフォン版「生涯学習NAVI」の利用促進に向けた取組の実施		未実施	実施（2020年度）	
	②新たな情報発信媒体の活用		未実施	活用（2021年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	利用促進に向けた手法の検討	スマートフォン版「生涯学習NAVI」利用促進に向けた取組の実施・検証			
	情報発信媒体の把握・検討	媒体活用に向けた調整	新たな媒体の活用・検証		
年度目標（指標①）	検討	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証
年度目標（指標②）	情報発信媒体の把握・検討	媒体活用に向けた調整	活用・検証	活用・検証	活用・検証

## &lt;2022年度の事業実績&gt;

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォン版「生涯学習NAVI」の町田市HPへの掲載に加え、多摩地域の暮らしに役立つ広報誌などの電子ブックや地域情報記事を発信するサイトである「TAMA ebooks」と連携し、同社HPに電子書籍版「生涯学習NAVI」の掲載を継続するとともに、同社HPのバナーを生涯学習センターHPに設置しています。</li> </ul>
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォン版「生涯学習NAVI」について、「TAMA ebooks」と連携し、電子書籍版「生涯学習NAVI」を刊行しました。</li> <li>学生活動報告会「カクマチEXPO」においてターゲット層である若者層への情報提供強化の取り組みとしてSNSを重視した広報展開を試行し、生涯学習センターのTwitterに加え、参加学生によるInstagram、連携団体のFacebook及びLINEによるPRを実施しました。これらSNSの相乗効果により、Twitter閲覧数は過去最高の約10,000アクセスを記録し、参加者数も2021年度比3.4倍の258名となりました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習情報をより多くの市民に提供するため、生涯学習センターの主催事業のみならず、多様な主体による学習情報を生涯学習センターが把握する必要があります。</li> <li>引き続き、情報発信のデジタル化を進めるとともに、デジタルデバイスにも留意し、必要とする全ての方に情報が届くよう配慮が必要です</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生涯学習NAVI」など生涯学習情報の提供手段について、従来の紙媒体からデジタル媒体への移行を検討します。</li> <li>多様な主体による生涯学習情報を把握するための仕組みを構築します。</li> <li>インターネットを利用したイベントの開催や、動画配信等による学習コンテンツの紹介、集合形式とオンライン形式を合わせたハイブリット形式イベントの実施など学習機会の提供についてもデジタル化を推進します。</li> </ul>

■取組2-2 歴史・文化資源等を活用した出張事業の推進【◇】	文化財係・自由民権資料館・文学館
--------------------------------	------------------

事業概要	町田市の歴史や文化についてより多くふれてもらえるよう、学校や子どもセンターでの講座や市民センターなどでの展示の実施、他部署が主催するイベントへの参加など、歴史・文化に関する資源や情報を活用した学習事業を様々な地域で展開します。				
これまでの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習総務課では、市庁舎イベントスタジオでの東京文化財ウィークに合わせた企画展示や青少年施設ひなた村などでの文化財の展示を行うほか、自治体主催の歴史講座や大学の講義、中学校の歴史の授業などでの出張講義を行っています。</li> <li>文学館では、小学校での出張講座として、町田ゆかりの俳人の紹介と俳句クイズを行う「俳句であそぼう！」や、市庁舎イベントスタジオでの出張展示を実施しています。</li> </ul>				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	出張事業（展示・イベント・講座等）の実施件数		28件	40件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業内容の検証		検証を踏まえた新たな事業の実施		
	出張事業の実施及び周知、関係機関への働きかけ				
年度目標	30件	32件	34件	37件	40件

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由民権資料館に係る講演会、地域の史跡などをめぐるフィールドワーク、地域の歴史に関する小中学校向け出張歴史授業など、37件の事業を実施しました。特に、小学校5校で実施した「昔の道具を使ってみよう」や「町田と養蚕について」では、「実物の資料を見たり、触ることができたのがよかった。」「学芸員から、専門的な話をきくことができて面白かった。」などの感想が寄せられ大変好評でした。</li> <li>ショートショート書き方講座、ショートショートコンクール受賞作品出張展示、職業紹介出張講座、たけがみたえ展出張おはなし会など、14件の事業を実施しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な場所で出張事業を受講した方が自由民権資料館や考古資料室、市民文学館ことばらんどにも足を運んでもらえるような取組が必要です。</li> <li>小中学校向け出張歴史授業を効果的・継続的に行うために、教員から聞き取りを行うなど、学校側のニーズをしっかりと把握することが重要です。</li> <li>学芸員が出張授業を継続して実施するためのマニュアルの整備が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のニーズを把握することや出張授業のアンケートを利用して、出張授業の内容を更新します。</li> <li>新たな利用者に学びの入り口を提供するため、町田市の歴史や文化を学ぶための講座やイベントを刷新して実施します。</li> <li>「ことばらんどショートショートコンクール」と連動した出張授業を継続的に実施するとともに、様々な年齢層に事業を知ってもらえる出張展示を検討します。</li> <li>玉川大学との協働により作成中の資料などを使用し、町田ゆかりの作家についての出張授業を行います。</li> </ul>



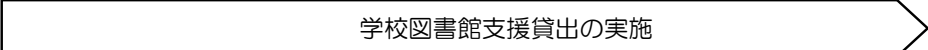
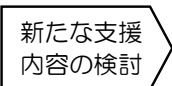
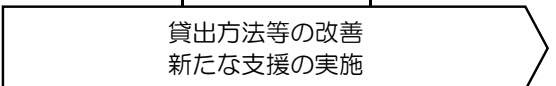
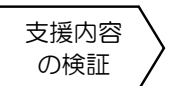
■取組2-3 子ども読書活動の推進【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	生涯にわたって主体的に読書をする習慣を身に付けることができるよう、子ども読書活動の推進に関する全市的な取組をまとめた「第四次町田市子ども読書活動推進計画（2020年度～2024年度）」を策定・推進します。特に、子どもの読書活動に合わせた図書資料の充実とともに、小学校英語の教科化などの動向を踏まえ、外国語の絵本・児童書を重点的に整備します。				
これまでの取組	第三次町田市子ども読書活動推進計画（2015年度～2019年度）に基づき、庁内各部署で計32の取組を実施するとともに、計画の進捗管理を「子ども読書活動推進計画推進会議」を通じて行っています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①第四次町田市子ども読書活動推進計画の策定		第三次計画に基づく事業の実施	策定完了（2019年度）	
	②外国語の絵本・児童書の蔵書数		3,966冊	6,500冊	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	第四次計画の策定	第四次計画に基づく事業の推進 推進会議を通じた事業の進捗確認の実施			
	外国語の絵本・児童書の計画的購入・活用 利用状況等の検証				利用状況等の検証
年度目標（指標①）	第四次計画の策定完了	事業の推進進捗確認	事業の推進進捗確認	事業の推進進捗確認	事業の推進進捗確認
年度目標（指標②）	4,500冊	5,000冊	5,500冊	6,000冊	6,500冊

## &lt;2022年度の事業実績&gt;

達成状況（指標①）	B 目標を達成した				
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度に策定した「第四次町田市子ども読書活動推進計画」の事業を推進するため、2022年度は7月と1月の計2回、町田市子ども読書活動推進計画推進会議を開催しました。</li> <li>・町田市子ども読書活動推進計画推進会議は、委員による事業報告の事前確認により、以前よりも効率よく会議を進めることができました。</li> </ul>				
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した				
取組状況（指標②）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語児童書の充実に向けてふるさと納税を活用したことにより外国語の絵本・児童書の蔵書数が約6,800冊となり、目標値を大きく上回りました。</li> <li>・「英語多読コーナー」を、2023年2月10日に3館（さるびあ図書館、金森図書館、堺図書館）に新たに設置しました。これにより、既存の3館（中央図書館、鶴川駅前図書館、忠生図書館）とあわせて予定していた6館に設置することができました。</li> <li>・英語図書の活用や英語多読の周知のため、英語多読講演会を2回開催した他に、保護者向け英語絵本の読み聞かせ講演会、ボランティア・職員向け英語絵本読み聞かせ研修会、10代向け英語多読講演会を行いました。</li> </ul>				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第五次町田市子ども読書活動推進計画の策定に向けて、現状の課題や問題を分析し、今後の方向性を検討する必要があります。</li> <li>・読み聞かせでの利用や英語多読初心者に適した、外国語の絵本・児童書を充実させる必要があります。</li> </ul>				
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、第四次町田市子ども読書活動推進計画計画の推進を図るとともに、第五次計画の策定について検討します。</li> <li>・読み聞かせや英語多読で使用できるように、電子書籍を含め外国語の絵本・児童書資料を引続き充実させます。</li> </ul>				

■取組2-4 学校図書館との連携強化【◇】	図書館
-----------------------	-----

事業概要	小・中学校の学校図書館への支援や子どもの読書活動を充実させるために、図書館から学校図書館への貸出のしくみを改善するなど、支援方法を見直して、学校図書館と図書館との連携を強化します。				
これまでの取組	さるびあ図書館を拠点に、「学校図書館支援貸出」（しらべ学習等に対応して、図書館が選書を行って提供する）により、小・中学校の学校図書館へ本を車で配本するサービスを行っています。また、学校図書指導員への研修に協力しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①学校図書館支援貸出利用校数	35校	42校		
	②学校図書館支援貸出数	3,768冊	4,500冊		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
					
年度目標 (指標①)	35校	37校	39校	40校	42校
年度目標 (指標②)	3,800冊	4,080冊	4,220冊	4,360冊	4,500冊

## &lt;2022年度の事業実績&gt;

達成状況 (指標①)	D 目標に達しなかった
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館支援貸出は26校に実施しました。</li> <li>・学校図書館への連携サービス改善のため、公立小・中学校へ学校図書館支援に関するアンケート調査を実施しました。また、町田市小学校教育研究会図書館部の教員に対して、学校図書館に関するヒアリングを実施しました。</li> </ul>
達成状況 (指標②)	D 目標に達しなかった
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館支援貸出の冊数は、2,884冊でした。</li> <li>・2022年10月から開始した電子書籍サービスを学校でも活用できるように検討しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館と連携をとりながら、学校図書館支援に関するサービスの改善に努める必要があります。</li> <li>・アンケート調査やヒアリングから、貸出依頼時に選書などに時間がかかり、利用しにくいことがわかりました。</li> <li>・電子書籍サービスを学校で活用する場合の実施方法を検討する必要があります。</li> </ul>
今後の取組の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館支援に関するアンケート調査の結果から、学校図書館支援貸出に関する改善策を検討していきます。</li> <li>・引き続き、学校図書館支援貸出、研修会の協力、団体貸出資料の配本サービス等を行い、学校図書館との支援や連携に努めていきます。</li> </ul>

■取組2-5 生涯学習施設の利用促進	文化財係・自由民権資料館・生涯学習センター・図書館・文学館
--------------------	-------------------------------

事業概要	より多くの市民に生涯学習施設を知ってもらい、幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、市内外の各機関と連携したPR活動を進めます。				
これまでの取組	リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信を行っています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①連携して行うPR活動件数		4件	10件	
	②SNS発信数		219回	800回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	新たな連携先の検討・調整	新たな連携先とのPR活動の実施	検証	検証結果に基づくPR活動の見直しと実施	
	SNSを利用した情報発信				
年度目標（指標①）	5件	6件	7件	8件	10件
年度目標（指標②）	520回	610回	670回	720回	800回

<2022年度の事業実績>

達成状況（指標①）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習部所管施設のほか、子どもセンターや小中学校、高校、大学、専門学校、さがまちコンソーシアム、町田市地域活動サポートオフィス、町田国際交流センターなど他施設との連携・共催事業を、自由民権資料館で7件、図書館で3件、文学館で14件、生涯学習センターで28件の合計52件実施し、施設の相互PRに務めました。</li> <li>図書館では、移動図書館車がシバヒロや芹ヶ谷公園のイベント、保育園・幼稚園に出張し、図書館のPRを行いました。</li> </ul>
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	<ul style="list-style-type: none"> <li>Twitterによる情報発信を自由民権資料館で56回、図書館で108回、文学館で768回、生涯学習センターで78回、文学館ではInstagramによる情報発信も50回実施し、合計1,060回のSNSによる情報発信を行いました。</li> <li>図書館では、Twitterのフォロワー数が毎年増加しており、2022年度には2021年度から148人増加し、1,478人になりました。</li> <li>生涯学習センターでは、学生活動報告会「ガクマチEXPO」のPRを、さがまちコンソーシアム、町田市地域活動サポートオフィスと連携して行い、相乗効果により生涯学習センター公式Twitterに10,000件を超えるアクセスがありました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の特徴を知ってもらい、未利用者に向けた事業や施設のPRが必要です。</li> <li>Twitter以外のInstagramなどのSNSの効果的な活用方法の研究が必要です。</li> <li>連携したPRのためには他施設や関係する機関との情報共有が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の愛称募集や新規講座の実施など、施設の魅力向上のための取組を進めます。</li> <li>SNSとHPの連動やTwitter以外のSNSの活用など、情報発信の方法を検討していきます。</li> <li>2022年度に連携した他施設等を中心に早めに情報共有を図り、事業の実現を進めます。</li> </ul>



事業概要	インターネットやスマートフォンの普及により、読書量が減っていると言われています。小学生以下の子どもの読書のきっかけとなる事業や、中高生を対象とした図書館に足を運びきっかけとなるイベントを行うなど、18歳以下へ向けた取組を強化します。				
これまでの取組	小学1年生を対象に「としょかんいちねんせい*」を実施しました。小学校高学年、中学生、高校生を対象にPOP（本の紹介カード）を応募する「まちだライブ・ラリー」を実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	18歳以下の方の利用登録につながる事業数		2事業	4事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	3事業実施		4事業実施	
年度目標	2事業	3事業	3事業	4事業	4事業

\*としょかんいちねんせい：公立小学校の新1年生に引換券（兼・利用登録用紙）を配布し、図書館・文学館に引換券を持参した児童にカードケースを贈る事業。

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の11事業を実施しました。 ①「としょかん1ねんせい」では、図書館に登録・更新した483名へミニプレゼントを渡しました。②5、6歳から小学校低学年を対象とした「読書手帳」を配布しました。③中央図書館で実施している中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」は273組682名の利用がありました。④「小学生向け講座～ちょっぴり図書館員になってみよう！」を実施し、14名の参加がありました。⑤YA世代*を対象に、一日図書館員を実施し、4日間で16名の参加がありました。⑥「青少年映画会」Yシネマ”を実施し、10代の参加は9名（総観客数は33名）でした。⑦中高生向け回遊型謎解きイベント「まちクエ2022*」を実施し、41名の参加がありました。⑧MSP（町田創造プロジェクト）と行ったイベント「図書館プランナーになってみよう！？」に6名の参加があり、提案されたボードゲーム大会のプレイベントを行いました。⑨「ひとことPOPコンテスト2022」を実施し、書店や地域文庫に周知や審査に協力をしてもらうことができました。作品は、90名からの応募があり、最優秀賞1名、優秀賞2名、また、応募作品全体から図書館長特別賞が2名選ばれました。⑩「英語多読で推し活がはかどります！」は7名の参加があり、趣味を楽しむための方法としての英語多読講演会を行いました。⑪文学館では、小学生から高校生までを対象に、「ことばらんどショートショートコンクール」を開催し、887点の応募がありました。
課題	・今後も中高生世代が読書や図書館に興味を持つよう、若者の意見を聞く必要があります。
今後の取組の方向性	・ボードゲーム大会を中心に、MSPやさがまち学生Clubなどからの提案を具現化するため、若者の参画を進めていきます。 ・今後も内容を見直しながら、継続した取り組みを実施します。

\*YA世代：ヤングアダルト世代の略で、中学生から大学生ぐらいの年齢層を想定。  
\*まちクエ2022：まちだクエストの略。謎解きゲームを通じ図書館内を巡ることで、図書館の基本的な構造や、本を借りるだけではない図書館の便利な使い方を体感してもらうイベント。

事業概要	いつでもだれでも気軽に利用できるという図書館の強みを活かし、地域の図書館で認知症予防の講座を市民と協働して実施するなど、シニア世代が住み慣れた地域でいきいきと健康に暮らしていくための取組を行います。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	シニア世代を対象とした事業数			未実施	2事業
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	実施検討	1事業実施		2事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	実施検討	1事業	1事業	2事業	2事業

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の5事業を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ことぶき大学まちだ探・探ゼミナールにおいて、講座「図書館を活用した調べ学習」「著作権/出典・引用の扱い」を中央図書館にて実施しました（生涯学習センターとの共催）。</li> <li>・鶴川駅前、金森、堺、忠生の各図書館及び移動図書館にて、シニア世代向け特集や認知症関連図書の特集展示等を行いました。</li> <li>・デジタルデバイス解消事業として、はじめてのスマホ体験（10月～11月）、スマートフォン・タブレット個別相談会（11月～3月）、セキュリティ講演会（11月）を実施しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア世代向けの効果的な情報提供方法や事業内容を検討する必要があります。</li> <li>・スマートフォン・タブレット個別相談会において、利用率が全体で52%に留まってしまったため、周知方法を含め、検討していく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集展示について、情報を常に提供できる方法を検討します。</li> <li>・スマートフォン・タブレット個別相談会について、周知方法・募集方法を見直し、利用率の向上を目指します。</li> </ul>


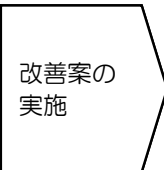



事業概要	通常の活字による読書が困難な人の学びのきっかけとなるよう、マルチメディアDAISY（デイジー）*の貸出を拡充するなど、より対象者を広げた障がい者サービスを行います。				
これまでの取組	視覚障がいなどで活字を読むことが困難な人、寝たきりなどで図書館への来館が困難な人へのサービスを行っています。さらに、視野狭窄などにより読書が困難な人を対象に、リーディングトラッカー（読書補助具）の貸出を実施しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	通常の活字による読書が困難な人を対象とした事業数			1事業	3事業
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	2事業実施		3事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業

\*マルチメディアDAISY（デイジー）：音声と一緒に、文字や絵、写真などを見ることができるパソコンで読む本のこと。

<2022年度の事業実績>

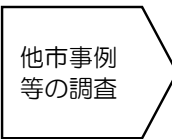
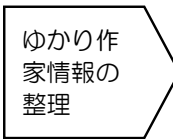
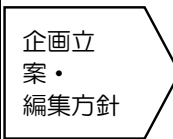
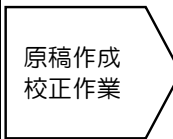
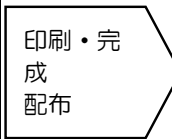
達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチメディアDAISYについて、上映会を開催し33名の参加がありました。図書館が所蔵する多様な資料のPRを行いました。若手教員育成研修で資料の紹介と、学校図書館支援貸出でも利用できることを案内しました。</li> <li>・ボランティア養成講座「初めての点訳ボランティア」を開催し、18名の参加がありました。</li> <li>・リーディングトラッカーの貸出を含め、実施した事業の合計は3事業となりました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書バリアフリーを進めるため、カセットテープによるサービスから転換する方策としてデイジー再生機器*の貸出サービスについて検討する必要があります。</li> <li>・引き続きボランティアの養成を支援するような取り組みが必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイジー再生機器の貸出サービスについて、情報収集するとともに実施に向けた検討を行います。</li> <li>・関連団体等とも協力して、ボランティア養成を進めます。</li> </ul>

\*テキストDAISY：音声データの入っていないパソコンで読む本のこと。再生機等の音声合成機能でテキストを読み上げさせて聞くことができる。

事業概要	町田市の施策や町田市の魅力をより多くの市民にPRするために、図書資料の展示方法やPRを改善しながら、「本の特集コーナー」による情報提供機会の充実を図ります。				
これまでの取組	2015年度から町田市の施策をPRするための「本の特集コーナー」を市の各部署と連携して行っています。市の施策を市民に役立ててもらおうとともに、図書館利用者を増やす取り組みのひとつとなっています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」の実施数		19回	33回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
年度目標	19回	26回	26回	33回	33回

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署からの希望時期が重複した場合は地域館で展開できるよう調整を行い、他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」を67回実施しました（中央図書館23回、さるびあ図書館3回、鶴川図書館1回、金森図書館1回、木曾山崎図書館1回、堺図書館4回、鶴川駅前図書館32回、忠生図書館2回）。</li> <li>・全館共通テーマに関連した特集コーナーなどの実施を行いました。</li> <li>・特集コーナーの実施に当たり、担当課所管のHP・SNSでも周知を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他部署からの特集コーナーの申込が多数となった場合等に、選定する方法を明確にする必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他部署からの特集コーナーの申込について、様式の改定を含め、より分かりやすい方法を検討します。</li> </ul>

事業概要	中学生を対象に町田ゆかりの作家*を紹介し、町田市への愛着をさらに持ってもらうきっかけとなるよう、パンフレット「町田の文学ガイド」を作成します。				
これまでの取組	大人向けの資料として、展覧会で紹介した町田ゆかりの作家を図録にまとめています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	「町田の文学ガイド」作成		未実施	作成・配布	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
年度目標	調査完了	調査完了	編集方針の決定	原稿完成	完成・配布

\*町田ゆかりの作家：遠藤周作や森村誠一など、その生涯や作品が町田市と深く関わり、文学の分野で一定の社会的評価を受けている小説家、歌人、俳人、詩人、絵本作家、漫画家等。

<2022年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉川大学と町田デザイン&amp;建築専門学校の学生とともに中学生向けの「町田文学ガイド（仮）」の作成を始めました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の活動時間や学校のカリキュラムに合わせて活動内容を設定する必要があります。</li> <li>・玉川大学と町田デザイン&amp;建築専門学校という2つの学校の生徒間での意思疎通ができるように、調整を行う必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学館が蓄積してきた知識や資料を活用して「町田文学ガイド（仮）」の完成を目指します。</li> <li>・作成したガイドブックを使用し、町田ゆかりの作家についての出張授業を行います。</li> </ul>

■取組3-1 地域の課題解決に向けた学習支援【◇】	生涯学習センター
---------------------------	----------

事業概要	地区協議会をはじめとした地域団体や関係機関と連携・協働しながら、住民自らが課題を見つけ出し、解決に向けて行動できるよう学習支援を進めていきます。				
これまでの取組	鶴川地区の交流促進や様々な困りごとの相談の場となっている鶴川地区協議会主催「3水スマイルラウンジ」にて「学びのひろば」を共催し、地域の歴史や文化を理解する講座などを実施しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	連携事業を実施した地区協議会の数（累計）			1地区	5地区
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	各地区協議会への働きかけ				
	地区協議会との連携事業の実施	検証	地区協議会との連携事業の実施（1地区）	検証	地区協議会との連携事業の実施（2地区）
	2地区	検証	3地区	検証	5地区

## ＜2022年度の事業実績＞

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴川地区協議会と共催し、和光大学ポプリホール鶴川を会場に開催している「3水スマイルラウンジ」の一企画として、地域の自然、歴史、文化をテーマにした「まなびのひろば」を6回実施しました。また、「スマホの使い方なんでも相談」事業を新たに共催し、地区協議会の方が、デジタル庁の推進するデジタル推進委員の資格を取得するための支援を行いました。</li> <li>・玉川学園南大谷地区協議会と連携し、玉川学園さくらんぼホールと南大谷さくら会館で、平和祈念事業「夏の平和イベント」として、子ども向けに「懐かしの16mmフィルムで観る平和上映会」を実施しました。</li> <li>・デジタルデバイス対策事業として、町内会・自治会や高齢者支援団体と連携し、「出張！なんでもスマホ相談室」を5箇所で開催しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題は多様化していることから、地区協議会に限定せず、地域の様々な主体と連携・協働していく必要があります。</li> <li>・事業の認知度向上に向け、広報活動や周知活動に取り組む必要があります。</li> <li>・多くの世代（特に学生）のニーズに沿った事業の展開が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題解決を支援するため、地域での学習機会の充実に向けた検討を行います。</li> <li>・地区協議会に限定せず、地域の様々な主体と連携・協働して事業を実施します。</li> </ul>

■取組3-2 町田の歴史情報の提供【◇】	文化財係・自由民権資料館
----------------------	--------------

事業概要	市民の郷土への理解や愛着がさらに深まるよう、町田の歴史をわかりやすく伝える「町田デジタルミュージアム*」を構築し、公開します。				
これまでの取組	新規事業				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	町田デジタルミュージアム構築の進捗			未実施	システム構築完了、公開（2022年度）
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	歴史資料分構築・公開	考古資料分構築・公開	考古及び民俗資料分構築・公開	公開・利用促進	
	歴史コンテンツ編集				
年度目標	歴史資料分公開	考古資料分公開	考古及び民俗資料分公開	公開	公開・検証

\*町田デジタルミュージアム：町田市が所蔵する考古、歴史、民俗資料をデジタル化し、インターネット上で閲覧できるようにする仕組みのこと。

### ＜2022年度の事業実績＞

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年4月1日から町田デジタルミュージアムを公開し、2023年3月31日時点でアクセス数が372,749件ありました。</li> <li>・町田デジタルミュージアムをより多くの方にご利用いただくために、ポスター・チラシの作成や動画の配信を実施しました。</li> <li>・自由民権資料館や考古資料室の展示をリニューアルする際、二次元コードを設置し、町田デジタルミュージアムと連携できるようにしました。</li> <li>・小学校での出張歴史授業実施時には、クロームブックを使って町田デジタルミュージアムの活用を図りました。</li> <li>・市内文化財の説明板6ヶ所に町田デジタルミュージアムの二次元コードを設置しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町田デジタルミュージアムの利用状況を検証し、公開内容の更新に向けた検討が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町田デジタルミュージアムとの連動を図りながら、自由民権資料館・考古資料室・三輪の森ビジターセンターでの展示や出張事業を実施します。</li> </ul>



■取組3-3 「文学の扉」事業の推進【◇】	文学館
-----------------------	-----

事業概要	より多くの市民に文学やことばに親しんでもらえるよう、町田ゆかりの作家の紹介や文字・ことばの魅力を伝える展覧会を、ことばに関連する他ジャンルを幅広く取り込みながら、より柔軟で多様な内容により実施します。また、若年層を対象とした創作活動などの学習事業を充実します。				
これまでの取組	町田ゆかりの作家を紹介する展覧会を中心に年4回の企画展を実施しています。また、0歳児・1歳児対象のおはなし会「ちちんぷいぷい」や小学生対象の俳句実作講座「子ども俳句教室」、一般対象の文学やことばに関する講演会など、ライフステージに合わせた学習事業を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①展覧会を通じ、新たな興味や学習意欲につながった人の割合（観覧者アンケート）		84%	90%	
	②中高生から20歳代を対象とした事業数		1事業	3事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	展覧会の実施、内容の検証・改善				
	若年層対象事業の実施・検討	若年層対象事業（2事業）実施		若年層対象事業（3事業）実施	
年度目標（指標①）	86%	87%	88%	89%	90%
年度目標（指標②）	事業の検討	2事業	2事業	3事業	3事業

### <2022年度の事業実績>

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年人気の高い将棋を扱った展覧会や、ユニークなことばの発信を行っている詩画家の展覧会など多角的な視点で文学をとらえる展覧会を実施し、多くの新規観覧者を獲得できました。</li> <li>・展覧会によって新たな興味関心を得た人の割合は、春季展86.8%、夏季展96.3%、秋季展80.9%、冬季展99.1%、平均値は90.8%となり目標を達成しました。</li> </ul>
達成状況（指標②）	D 目標に達しなかった
取組状況（指標②）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町田ゆかりの人気漫画家である「浅野いにお展」では来館者のうち20代までの方が60.8%を占め、若い世代の来館につながりました。</li> <li>・「ことばらんどショートショートコンクール」には887作品の応募がありました。また、コンクールと連動した事業として、関連動画3件を公開してPRに努めるとともに、学校への出張授業を9回行いました。</li> </ul>
課題	コロナ禍での数々の規制が撤廃され、体験・体感を通して感動を直接感受したいという来館者が増えている一方で、SNS等オンラインでのつながりを求める人々は定着化し、両者への対応が必要です。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面型の事業の実施をすすめるとともに、SNS等を活用した事業を検討します。</li> <li>・「ことばらんどショートショートコンクール」への応募意欲を喚起するために新たな動画を公開します。</li> </ul>



<b>■取組3-4 文化財の維持・保護・復旧の推進</b>	文化財係
-------------------------------	------

事業概要	文化財を維持・保護し、下三輪玉田谷戸横穴墓群*、細野喜代四郎書斎*など、未整備、未公開の文化財の復旧・修復を推進します。				
これまでの取組	横穴墓、古民家など市内の指定文化財を復旧し、整備を進めています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	下三輪玉田谷戸横穴墓群復旧整備		現況測量完了	整備完了・公開	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	整備 事前準備	保存管理計画策定 遺構再確認 調査、保存 処理調査	実施設計	整備工事	公開
年度目標	史跡整備事前準備完了	保存管理計画策定開始 遺構再確認調査 保存処理調査	保存管理計画策定完了 実施設計	整備工事	整備完了・公開

\*下三輪玉田谷戸横穴墓群：古墳時代後期（7世紀ごろ）の地域の有力者の墓。崖面に横穴を掘り遺体を安置した。都内で唯一、墓の内部に家形の彫刻が施されている。  
 \*細野喜代四郎書斎：町田を代表する自由民権運動家・細野喜代四郎が書斎として愛用した土蔵。解体され、現在部材の状態で保管されている。

<2022年度の事業実績>

達成状況	E 目標を大きく下回った、実施できなかった
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な点検、清掃を行いました。</li> <li>・町田デジタルミュージアムで下三輪玉田谷戸横穴墓群の内部を3Dパノラマビュー画像で公開しています。内部への立ち入りを禁止しているため、現地入口部分に町田デジタルミュージアム該当ページの二次元コードを設置しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横穴墓内の天井や壁の崩落は進行しており、状況観察を継続的に行う必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存管理計画策定に向けて、文化財の劣化を最小限に抑えるため、必要に応じて応急的な保存措置を講じます。</li> </ul>

<b>■取組3-5 文化財の公開・活用の充実</b>	文化財係
----------------------------	------

事業概要	文化財を積極的に公開・活用し、市民が文化財に触れ合える機会をより多く提供します。				
これまでの取組	市内の指定文化財の公開・活用イベントを実施しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	文化財の公開・活用イベント件数			4件	6件
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	イベント4件実施			イベント 5件実施	イベント 6件実施
	イベント内容検証		イベント内容 検証・ 新規イベント 検討	イベント内容 検証・ 新規イベント 検討	イベント内容 検証・ 新規イベント 検討
年度目標	4件	4件	4件	5件	6件

＜2022年度の事業実績＞

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<p>下記5件の文化財の公開・活用イベントを実施しました。</p> <p>①国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡見学会          ②旧永井家住宅「デジタル掛け軸」          ③着物で楽しむ薬師池の秋満喫さんぽ（旧荻野家住宅が着付け会場）          ④文化財防火デー          ⑤町田市考古資料室リニューアルオープン記念特別開室（3日間）</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財を公開・活用するには、破損が生じないような対策が必要です。</li> <li>・公園内にある文化財については、公園のイベント等と積極的に連携して行うことで相乗効果を図っていく必要があります。</li> <li>・デジタル技術を活用した事業も検討していく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の破損防止対策を講じるなど、文化財の保護と公開・活用の両立を図ります。</li> <li>・デジタル技術を活用した効果的な公開・活用のあり方を検討し実施します。</li> </ul>

<b>■取組3-6 展示事業の充実</b>	自由民権資料館
-----------------------	---------

事業概要	自由民権運動と町田の歴史情報をさらに発信できるよう、これまで収集・整理した市域の歴史資料を基にした企画展や、収蔵資料に加え関連資料を市内外の施設や個人から借用し展示する特別展を実施します。				
これまでの取組	企画展・特別展を年3回実施しています。 また、来館者アンケートにより展示等、資料館の満足度について調査を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	資料館への満足度 （来館者アンケート）		77%	85%	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	企画展・特別展	企画展・特別展	企画展・特別展	企画展・特別展	企画展・特別展
	展示・展覧会の内容の検証・改善				
	来館者アンケートによる調査・検証・改善				
年度目標	80%	82%	83%	84%	85%

<2022年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	常設展をリニューアルし、11月から「自由民権運動と町田」展、2月から「町田の歴史－くらしでたどる人びとのくらし－」展を公開しました。町田市域の原始から現代までの歴史を紹介する通史展を常設で開設するのは市内で初めての試みです。11月の常設展リニューアル以降の来館者アンケートでは、「興味深かった」または、「興味を持てた」と回答した方の割合は96%でした。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度にリニューアルした2つの常設展示を多くの方にご覧いただくための取組が必要です。</li> <li>・身近な場所で、本物の資料を見ながら町田の歴史を学ぶことができるよう、近隣の小中学校の児童生徒が気軽に参加できる事業を行う必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季に「町田のおカイコさん」展を自由民権資料館と三輪の森ビジターセンターで同時開催します。</li> <li>・自由民権資料館の愛称募集期間内に展示解説日を設けて近隣の小中学校に呼びかけるなど、施設を知ってもらうことと展示の両方のPRを実施します。</li> </ul>

■取組3-7 講座・講演会事業の充実	自由民権資料館
--------------------	---------

事業概要	より深く歴史について学びたいという市民のニーズにこたえられるよう、古文書講座や町田自由民権カレッジを実施するほか、特別展・企画展に関連した講演会や講師を招いた講座・講演会等を実施します。				
これまでの取組	古文書講座、町田自由民権カレッジのほか特別講座や、特別展に関連した講演会を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	講座・講演会等の実施回数		60回	70回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	講座・講演会 40回実施	講座・講演会60回実施		講座・講演会70回実施	
	講座・講演会の内容の検証・改善				
年度目標	40回 ※改修工事の為	60回	60回	70回	70回

<2022年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、狭隘スペースである資料館閲覧室で実施する講座を中止し、古文書講座及び町田自由民権カレッジについて、事業内容を見直すための検討を実施しました。</p> <p>一方、常設展リニューアル関連事業「記念講演会」、『町田市史史料集』掲載の史料を読み解く「特別講座」、地域の史跡などを歩いてめぐる「町田の歴史を歩く2023」などを市内の公共施設で開催したほか、小中学校への出張授業、市民大学等への出張講師などを計32回実施しました。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町田自由民権カレッジを再構築し、これから町田市の歴史を知ろうとする方からより深く町田の歴史を知りたい方など、幅広いニーズに合わせた講座を企画・運営することが必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文書講座は、前期・後期を分けて募集するとともに、収容人数の多い市内の施設に会場を移すことで、多くの方に学びの機会を提供します。</li> <li>・町田の歴史を学ぶための講座を、ターゲット層に応じた内容を企画して実施します。</li> </ul>

事業概要	市民の調査・研究を援助するレファレンスは、市民一人一人の学びを深めることができる重要なサービスです。求める資料を見つけることができるように、レファレンスサービスの充実に向けて技術の向上を図ります。さらに、レファレンス事例の公開や、インターネット情報にアクセスできる環境を整備します。				
これまでの取組	レファレンス事例をデータ化し、インターネットで公開しました。基本的な資料を案内する「パスファインダー」を作成しました。調べ物に役立つ情報をまとめた「レファレンス通信」を発行しました。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	レファレンス事例の公開件数			162件	250件
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	レファレンス事例の公開				
	レファレンス事例の点検 と今後の改善方法の検討		レファレンス技術の向上の ための改善プラン実施		事例の公開 の振り返り
	190件	205件	220件	235件	250件

<2022年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レファレンス事例をインターネットで21件公開し、公開件数は延べ279件になりました。</li> <li>・国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を20件公開しました。</li> <li>・レファレンス事例や資料を紹介する「レファレンス通信」を2回発行しました。</li> <li>・パスファインダー「ビジネス編」の改訂を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レファレンス事例については、利用者の調べ物に役立つよう、引き続き幅広い分野について公開していく必要があります。特に町田の地域資料に関する事例の充実が必要です。</li> <li>・レファレンスサービスを身近に感じてもらえるような取組が必要です。</li> <li>・「パスファインダー」については、最新の情報を提供するため定期的に改訂する必要があります。</li> <li>・レファレンスサービスの充実には、職員の技術力向上が欠かせず、人材育成が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、町田の地域資料を中心とした幅広い分野について、レファレンス事例を公開していきます。</li> <li>・「レファレンス通信」やイベント等を通じて、利用者に身近に感じてもらえるような工夫を行います。</li> <li>・「パスファインダー」の改訂を行います。</li> <li>・レファレンス技術向上のため、都立図書館等の研修に積極的に参加します。</li> </ul>

■取組4-1 市民提案型事業の推進【◇】	生涯学習センター
----------------------	----------

事業概要	学習ニーズをより反映させた内容となるよう、市民団体の提案を基に地域課題の解決につながる学習講座を提案者とともに作り上げていく市民提案型事業「まちチャレ*」を拡充します。				
これまでの取組	地域で活動する学生団体が企画・運営する学生活動報告会*を開催するとともに、市民提案型事業「まちチャレ」を開始しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	市民提案型事業「まちチャレ」で実施する講座数		5講座	8講座	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	5講座実施	6講座実施		7講座実施	8講座実施
	事業実施体制の整備				
年度目標	5講座	6講座	6講座	7講座	8講座

\*まちチャレ：市民が日常生活の中の課題等を基に企画提案したものを、生涯学習センターとともに実施する学習講座。

\*学生活動報告会：町田市や相模原市で活躍する学生団体が、ポスターブース等で活動内容を紹介するイベント。

#### <2022年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な分野の学習ニーズを講座内容に反映し、「まあいっかと思える子育て」「子どもとの関わりにもっと絵本を」「知ろう！外国にルーツを持つ子どものこと」「アートのはじめ」「こどもからはじまる」「障がいって特別なことなの？」「しあわせの見つけ方」の7講座を実施しました。</li> <li>・7講座のうち2講座を中央図書館、1講座を玉川学園コミュニティセンターで実施し、学びの場を広げることができました。</li> <li>・2023年度の説明会に合わせて、2022年度講座実施団体の報告会を行い、団体同士が相互に交流する機会を設けました。</li> <li>・町田市地域活動サポートオフィスとの共催で「みんなの経験共有会vol.10まちチャレやってみた！」を実施し、事業を広く周知することができました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育付講座に対するニーズが多く、子育て中の方が受講しやすい環境を整える必要があります。</li> <li>・多くの世代の多様な地域課題や学習ニーズに応える必要があります。</li> <li>・生涯学習センター以外の会場で実施し、地域で学ぶ場を充実させる必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育付講座を実施し、子育て中でも気軽に受講できる環境を整えます。</li> <li>・多くの方が講座の企画に参加できるよう、実施方法を検討します。</li> <li>・地域で学ぶ場を充実させるため、応募団体へ企画の段階で、地域実施にむけた働きかけを行います。</li> </ul>

■取組4-2 協働による研究・発表の推進【◇】	自由民権資料館・ 文学館
-------------------------	-----------------

事業概要	市民の学習・研究意欲が高まり、学んだ成果を地域に還元してもらうことができるよう、市民の学習・研究活動の支援を行うとともに、協働して研究成果物の刊行や企画展・イベント等を実施します。				
これまでの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由民権資料館では、古文書講座や自由民権カレッジなどの修了生が組織する歴史研究グループの研究活動を支援しています。また、資料館の収蔵する史料の整理の一部を学生ボランティアの協力により行っています。</li> <li>文学館では、2年を任期として市民がテーマを設定して研究を進める「市民研究員制度」を実施しています。また、市民研究員との協働により定期的に研究成果物を刊行し、研究発表の支援を行っています。</li> </ul>				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①研究成果物の刊行に向けた事業数		6事業	8事業	
	②研究発表会等の実施回数		未実施	毎年度実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	研究支援及び成果物の刊行				
	企画展・研究発表会検討			企画展・研究発表会実施	
年度目標 (指標①)	6事業	7事業	7事業	8事業	8事業
年度目標 (指標②)	検討	実施	実施	実施	実施

### <2022年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	B 目標を達成した
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由民権資料館では、地域で歴史を研究する団体が定期的に活動できるよう支援を行い、資料集の刊行に向けた解説作業を5事業、目録の作成に向けた整理を3事業実施しました。また、解説作業のうち1件については、「村野日誌2」として刊行することができました。</li> <li>文学館では、玉川大学と町田デザイン&amp;建築専門学校の学生とともに中学生向けの「町田文学ガイド（仮）」の作成を始めました。</li> </ul>
達成状況 (指標②)	B 目標を達成した
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>町田デザイン&amp;建築専門学校の学生と協働し、駅前商業施設での出張展示「ことばらんどショートショートコンクール受賞作品展」を実施しました。</li> <li>和光大学（長尾ゼミ）との協働により「たけがみたえ展」の関連イベントとして「絵本ピクニック」（読み聞かせの会）とミニ展示を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で歴史を研究する団体の活動を支援するとともに、より多くの学習機会を提供するため、史料整理を進める必要があります。</li> <li>学生の活動時間や学校カリキュラムに合わせて活動内容を設定する必要があります。</li> <li>連携する学校の生徒間の意思疎通ができるように、調整を行う必要があります。</li> </ul>
今後の取組の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で歴史を研究する団体の活動支援をしつつ解説作業を継続するとともに、選定した重要史料群を優先的に整理を進めます。</li> <li>文学館が蓄積してきた知識や資料を活用して「町田文学ガイド（仮）」を完成させます。</li> <li>作成したガイドブックを使い、町田ゆかりの作家についての出張授業を行います。</li> </ul>



■取組4-3 地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】	図書館
-------------------------------	-----

事業概要	おはなし会などの本にかかわる活動がより活発に行われるよう、地域や学校で活動するボランティアを養成するとともに、ボランティアが行うおはなし会の開催を支援します。				
これまでの取組	各図書館でのおはなし会については、ボランティア入門講座を行っておはなし会の担い手を育成し、職員とボランティアが協力して、おはなし会を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①地域で活動するボランティア向け講座の開催回数		1回	3回	
	②地域で活動するボランティア向け講座への参加者数		26人	90人	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
年度目標 (指標①)	1回	1回	2回	2回	3回
年度目標 (指標②)	30人	30人	60人	60人	90人

## ＜2022年度の事業実績＞

達成状況 (指標①)	B 目標を達成した
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」を2回、「応用編」を1回、図書館ボランティアを対象としたスキルアップ研修等を4回開催し、計7回開催しました。</li> </ul>
達成状況 (指標②)	B 目標を達成した
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座「基礎編」に25人、「応用編」に13人、図書館ボランティアを対象としたスキルアップ研修等に45人、計83人の参加がありました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に学校や学童クラブで活動している方に向けて行う講座については、より広範囲の市民に周知できるよう案内の方法を検討する必要があります。</li> <li>・図書館のおはなし会で活動しているボランティアに向けて行う講座に関しては、参加者を増やすために講座の内容及び案内の方法を検討する必要があります。</li> <li>・地域で活動するボランティアを増やしていくために、新規にボランティアを養成する必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、各館の担当者と打合せを行い、図書館としてより効果的に実施する方法を検討します。</li> <li>・ボランティアに対して、新たな活躍の場の創出や技術の維持向上を図るための支援手法を検討します。</li> </ul>



<b>■取組4-4 学習成果の発表機会の支援</b>	生涯学習センター
----------------------------	----------

事業概要	生涯学習センターを拠点として活動している市民団体や、町田市及び近隣地域で活動する学生団体が、より多くの人に日頃の活動の成果を発表できる機会を提供します。				
これまでの取組	日頃の活動の成果を発表する「生涯学習センターまつり」、「学生活動報告会」を開催しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①生涯学習センターまつりへの参加団体数（来館者数）		53団体 (2,167人)	58団体 (2,500人)	
	②学生活動報告会への参加団体数		9団体	11団体	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	生涯学習センターまつりの実施（運営委員会による内容検討）				
	学生活動報告会の実施（参加学生団体への支援・内容検討）				
	新たな支援内容の検討	新たな支援に向けた調整	新たな支援の実施		検証
年度目標（指標①）	54団体 (2,230人)	55団体 (2,300人)	56団体 (2,370人)	57団体 (2,430人)	58団体 (2,500人)
年度目標（指標②）	10団体	10団体	10団体	11団体	11団体

<2022年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	生涯学習センターで活動している団体の日頃の活動成果を発表する場として、生涯学習センターまつりを3年ぶりに来場型で実施し32団体が参加しました。当日は「町田時代祭り」、「文学館まつり」、「ゆうゆう版画美術館まつり」との連携企画として各まつりを回るスタンプラリーも実施したことから1,100人が来場しました。
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	地域で活動している学生団体の成果発表と地域との協働の場として、学生活動報告会「ガクマチEXPO」を開催しました。2022年度は学生の参画の度合いを高め、事業企画から学生の意見を取り入れ、「学生による授業」形式で開催しました。当日は、桜美林大学、玉川大学、法政大学、和光大学などから11団体が参加し、258人が来場しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期にわたる新型コロナウイルス感染症の影響で、活動団体数が減少傾向にあります。新たな参加団体獲得に向けた取り組みが必要です。</li> <li>・若者層、生産年齢層の参加を増やすため、事業内容や広報手段を検討していく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同日開催される近隣のイベントとの連携や事業への協力団体との連携を強化し、新たな来場者の獲得を目指します。</li> <li>・デジタルの活用など、若者層、生産年齢層の興味を引くような事業内容、広報手段を事業に取り込みます。</li> </ul>

<b>■取組4-5 生涯学習ボランティアバンク事業の推進</b>	生涯学習センター
----------------------------------	----------

事業概要	生涯学習ボランティアの知識や技能を広く市民の学習活動に活かすことができるよう、生涯学習ボランティアバンク事業の更なる周知に努め、利用件数の向上を図ります。				
これまでの取組	小学校PTA連絡協議会において、保護者向けに事業の周知を図りました。 また、事業の周知のため、生涯学習センターまつりにおいて一日体験講座を実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	生涯学習ボランティアバンクの利用件数		16件	30件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	新たなPR 方法の検討	新たなPR 方法の実施	検証	検証結果に基づくPR方法の 見直しと実施	
	生涯学習ボランティアバンクー一日体験講座の実施				
年度目標	18件	22件	25件	28件	30件

<2022年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「町内会・自治会活動のハンドブック」への紹介記事掲載、市ホームページやTwitterによる情報発信などのPRを継続して実施しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、市民団体の解散や活動停止・縮小が続き、登録団体数は2021年度比16件減の92件となり、制度の利用も2021年度比4件減の4件に留まりました。</li> <li>・登録団体の指導スキル向上のため、ものづくりの指導者養成を行っている市民団体と2023年度講習会実施に向けた調整を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学校のコミュニティスクールでの活用が進むよう、学校と地域の学習指導者をつなぐ仕組み作りが求められています。</li> <li>・子ども向け指導スキルの向上のため、登録団体が学ぶ機会を設けていく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響も落ち着き、市民の活動も新型コロナウイルス感染症の流行前に戻りつつある状況を踏まえ、制度の積極的な周知に努めます。</li> <li>・学校や子ども施設での利用促進のため、登録者向けの研修の実施や制度の改善を図ります。</li> </ul>

<b>■取組4-6 障がい者の学習成果を発表する場の充実</b>	生涯学習センター
----------------------------------	----------

事業概要	障がいのある人が、社会で生活しながら学び続けられるように、視覚や聴覚などの障がいに応じた学習要求の調査、研究を行い、学習プログラムを開発します。その上で、発表の場を設けることで障がい者の生涯学習を推進します。				
これまでの取組	主に知的障がいのある人を対象とした障がい者青年学級において、学級ごとに学習成果の発表の場を設けるなど、生涯学習の推進に取り組んでいます。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	障がいに応じた学習成果の発表の場		未実施	実施 （2021年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	調査・研究	学習 プログラムの 開発	事業の実施 ・検証	事業の実施 ・検証	事業の実施 ・検証
年度目標	調査・研究	学習プログラムの 開発	実施・検証	実施・検証	実施・検証

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある人のための学習講座【視覚障がい編】として全6回コースの講座「みえない暮らしって？」を実施しました。</li> <li>・講座の周知にあたっては、町田市視覚障害者協会や町田市社会福祉協議会などにも協力を求めたことから、全受講者のうち4割に視覚障がい者の方の参加がありました。講師も視覚障がい者の方を多く起用するとともに、受講者によるグループ発表の機会を設けたため、障がい者の発表の場を充実させることができました。</li> <li>・聴覚障がい者の方にも受講していただけるよう手話通訳を手配しました。</li> <li>・受講者同士の交流を中心とした講座としたことで、講座修了後も受講者同士の繋がりが保たれました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある方の参加が増えていますが、対象とする障がい種別に配慮したPR方法の工夫が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの有無にかかわらず受講者を広く募集し、グループ活動、意見交換の場を大切にし、相互の理解、交流が深まるよう配慮します。</li> <li>・地域との繋がりをつくり、深めていくため、町田市社会福祉協議会やFC町田ゼルビアなどとの協力、連携を図ります。</li> </ul>

事業概要	市民の学習を支える図書館活動を市民参画・協働でこれまで以上に進めることができるよう、図書館で活躍するボランティアの活動分野を拡げていきます。				
これまでの取組	児童サービスの「おはなし会ボランティア」、障がい者サービスの「宅配ボランティア」・「音訳ボランティア」・「点訳ボランティア」・「対面朗読ボランティア」で市民ボランティアが活動しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	ボランティア活動分野の拡大			5分野	7分野
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	5分野	6分野		7分野	
	拡大に向けた検討				
	5分野	6分野	6分野	7分野	7分野

<2022年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①おはなし会ボランティア（小学生・幼児向け：202回、乳幼児向け：102回開催）②宅配ボランティア（宅配件数：431件）③音訳ボランティア（音訳資料製作タイトル数：43点）④点訳ボランティア（点訳資料製作タイトル数：18点）⑤対面朗読ボランティア（対面朗読件数：279件）⑥イベント企画（イベント件数：2件）の6分野でボランティアの活動がありました。</li> <li>・さがまち学生Clubが実行委員の「つながりマルシェin芹ヶ谷公園」に、移動図書館が出展しました。電子書籍サービスキャラクター「ブックロー」のしおり（ぬりえ）を学生が作成し、来場者に配布しました。</li> <li>・MSP（町田創造プロジェクト）と行ったイベント「図書館プランナーになってみちゃう！？」に6名の参加があり、提案されたボードゲーム大会のプレイイベントを行いました。</li> <li>・町田市市政モニターアンケートを活用し、「図書館電子書籍サービス及び図書館ボランティアについて」情報収集を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや若者に図書館とのコラボイベントを検討・提案してもらい、参画を進めていく必要があります。</li> <li>・ボランティアとして、興味のあることに気軽に参加できる環境づくりや研修制度の充実が必要です。</li> <li>・市政モニターの結果から本の返却や本棚の整理といったボランティアのニーズが高いことや自分の都合の良い時間で参加出来ると参加しやすくなることが分かったため、これらを踏まえた検討が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動につなげるため、読書や図書館に興味を持つきっかけになるようなイベントの企画・運営を検討します。</li> <li>・市政モニターの結果を踏まえたボランティア活動を検討します。</li> </ul>

<b>■取組4-8 市民の文学活動への支援</b>	文学館
---------------------------	-----

<b>事業概要</b>	多くの市民が文学の楽しみを知り、市民同士の交流が広がるよう、市民の活動の自発性を尊重しながら、その学習成果や文学的知識、技能、表現力などを還元できる機会をつくります。				
<b>これまでの取組</b>	読み語り実行委員会との朗読会、紙芝居サークルとの紙芝居上演会、幼児向けおはなし会などを協働で実施しています。				
<b>活動指標</b>	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	支援団体数		5団体	7団体	
<b>工程表</b>	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	市民団体への支援				
	事業内容の検証		検証を踏まえた新たな事業の実施		
<b>年度目標</b>	6団体	6団体	6団体	7団体	7団体

<2022年度の事業実績>

<b>達成状況</b>	D 目標に達しなかった
<b>取組状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策をとりながら、「紙芝居・大人の時間」、「3・4才児あつまれ！」を実施しました。</li> <li>・和光大学長尾ゼミとの協働により「たけがみたえ展」の関連イベントとして読み聞かせの会である「絵本ピクニック」とミニ展示を行いました。</li> <li>・玉川大学と協定を結び、中学生向けの「町田文学ガイド（仮）」の作成を始めました。</li> <li>・町田デザイン&amp;建築専門学校と協働でショートショートコンクールの受賞作品展を実施しました。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の数々の規制が撤廃されたことによる市民活動の活発化が予想され、受け入れ体制の整備が必要です。</li> <li>・学生との事業では、学生の活動時間や学校のカリキュラムに合わせて活動内容を設定する必要があります。</li> </ul>
<b>今後の取組の方向性</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が自発的に行える活動について広く知ってもらえるよう、市民協働事業のPRに努めます。</li> <li>・玉川大学との協働による文学ガイドの完成を目指し、これを利用して町田ゆかりの作家についての出張授業を行います。</li> </ul>

■取組5-1 支援が必要な人への学習機会の提供【◇】	生涯学習センター
----------------------------	----------

事業概要	外国人居住者、障がい者、ひきこもり当事者など文字の読み書きや基礎学力の学び直しを求める人の学習機会を保障するため、学習に関するニーズ調査を行い関係機関と連携して学習機会を提供します。				
これまでの取組	障がい者を対象とした「障がい者青年学級」、ひきこもり当事者を対象とした居場所事業などを実施しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	①多文化共生*に関する学習事業数			1事業	3事業
	②社会的困難を抱えた人への学習事業数			3事業	5事業
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	各種学習事業の実施 関係機関への働きかけ				
	参加者アンケート等によるニーズ調査・ 事業内容への反映			市民意識 調査での ニーズ 把握	新たな 事業の 実施
	年度目標 (指標①)	1事業	2事業	2事業	3事業
年度目標 (指標②)	3事業	4事業	4事業	5事業	5事業

\*多文化共生：国籍や民族などが異なる人々が、文化的な違いを認め合い、対等な関係を築きながら、ともに生きていくこと。

## &lt;2022年度の事業実績&gt;

達成状況 (指標①)	A 計画以上に目標を達成した
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生に関する学習事業数は4事業実施しました。市民提案型事業で「知ろう！外国にルーツを持つ子どものこと」、国際交流センター共催事業で「まちだdeトークプラザ-日本で働く外国人-」、子どもも学べる平和祈念イベントで「せかいの国となかよくなるう～世界のことで話そう遊ぼう～」、主催事業「ネパール伝統文化に触れる国際理解講座」を実施し、多文化共生への理解を深めました。</li> </ul>
達成状況 (指標②)	B 目標を達成した
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的困難を抱えた人への学習事業数は5事業実施しました。障がい者青年学級及びまなびテラス」を実施するほか、まちチャレでは「障がいって特別なことなの？」、「しあわせの見つけ方？」を実施し、社会的困難を抱えた人々の生きづらさを理解する機会を創出しました。障がいのある人のための学習講座「見えない暮らしって？」では、視覚障がいについて理解を深めることができました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施にあたっては、引き続き関係機関と連携していく必要があります。</li> <li>・学ぶことに支援が必要な方の学習機会を充実させていく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生や社会的困難に関する学習事業では市民ニーズをより反映させたテーマで実施します。</li> <li>・誰もが公平に学べる環境を整備していきます。</li> </ul>



<b>■取組5-2 本と出会う場所の創出【◇】</b>	図書館
-----------------------------	-----

事業概要	町田市内には大学図書館や地域文庫、まちライブラリー*など本に触れることができる施設が各地域にあります。これらの施設と図書館が連携して読書活動を推進する取組を進めるとともに、これらの施設の情報を集約した読書マップを作成します。				
これまでの取組	市民が利用可能な大学図書館やおはなし会を実施している団体の情報を収集し、図書館ホームページに掲載しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①読書活動推進にかかる連携施設数		20か所	25か所	
	②読書マップの作成		未実施	作成・公開（2020年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	年度目標（指標①）	21か所	22か所	23か所	24か所
年度目標（指標②）	施設の把握	作成・公開	検証	更新	検証

\*まちライブラリー：47ページのコラム「まちライブラリーとは？」を参照。

### <2022年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動推進にかかる連携施設数は2か所減少し、23か所となりました。</li> <li>・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力し、2023年3月のイベント「本でつながるフェスタ in 鶴川団地 ～本と人とまち～」を開催しました。当日は読書談義や各出展者のおすすめ本の紹介などを実施し、約800人の方々にご来場いただきました。</li> <li>・冒険遊び場や保育園など子どものあつまる場所7か所に対し、移動図書館を合計57回出張運行し、資料の貸出・閲覧を行ないました。さらに、市内のイベントに3回参加し、日頃図書館を利用していない方も含め、本と出会う場所を創出しました。</li> </ul>
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	読書マップは、2023年2月1日現在の情報に更新した改訂版を作成しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力した取り組みについて、継続して検討する必要があります。</li> <li>・読書マップの内容を充実させるため、継続して情報を収集して増やしていく必要があります。</li> <li>・読書マップや読書活動を推進している連携施設、読書普及活動に取り組んでいる個人や団体の取り組みについて、効果的な情報提供方法を検討する必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力したイベントについて、2023年度も継続します。</li> <li>・読書マップや読書活動を推進している連携施設、読書普及活動に取り組んでいる個人や団体の取り組みについて、効果的な情報提供方法を検討します。</li> </ul>

<b>■取組5-3 文化財の保存と活用環境の整備【◇】</b>	文化財係
---------------------------------	------

事業概要	発掘調査や環境整備によって、牢場遺跡・稲荷山遺跡・八幡平遺跡からなる高ヶ坂石器時代遺跡を維持保存できるようにし、文化財の魅力をより広く伝えられるよう積極的に公開活用します。				
これまでの取組	遺跡整備工事、現場公開を各年度実施しました。 2016年度：稲荷山遺跡工事・公開、八幡平遺跡工事 2017年度：牢場遺跡工事・公開 2018年度：牢場遺跡史跡公園用地買収、牢場遺跡工事、八幡平遺跡工事				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	高ヶ坂石器時代遺跡整備進捗		整備着手	八幡平遺跡整備工事、牢場遺跡買収地整備工事、ガイダンス施設基本設計	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	八幡平遺跡整備工事	八幡平遺跡整備工事、牢場遺跡買収地設計	八幡平遺跡公開・見学会実施	高ヶ坂石器時代遺跡見学会実施	八幡平遺跡整備工事、牢場遺跡買収地整備工事、ガイダンス施設
年度目標	八幡平遺跡整備工事	牢場遺跡設計 八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開・見学会実施	牢場遺跡整備 ガイダンス施設基本計画	ガイダンス施設基本設計、展示基本設計

## &lt;2022年度の事業実績&gt;

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高ヶ坂石器時代遺跡の見学会を2022年11月に実施しました。応募開始から1時間程で定員に達し、参加者の満足度も高い結果となりました。</li> <li>・八幡平遺跡と牢場遺跡に新規の遺跡説明板を設置しました。</li> <li>・高ヶ坂石器時代遺跡を含む「遺跡マップ」を作成し、考古資料室や自由民権資料館で配布を開始しました。</li> <li>・2022年4月1日から公開を開始した「町田デジタルミュージアム」で、高ヶ坂石器時代遺跡の詳しい内容を公開しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未整備箇所を着実に整備していく必要があります。</li> <li>・文化財保護に対する市民の理解をえるため、積極的な情報発信により遺跡の認知度を高める必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度に取得した牢場遺跡内の土地の整備工事を実施します。</li> <li>・八幡平遺跡の整備工事（植栽等）を実施します。</li> <li>・ホームページでの情報掲載、見学会の開催などを通じて、遺跡の魅力を発信します。</li> </ul>



事業概要	所在調査・探索により発見された史料、寄贈・寄託等の申し出がある市域の各家等に 残る史料を整理して、半永久的な学習・研究資源とするために保存環境を整えます。 また、整理した史料は、利用者の希望に応え、展示や刊行物に還元できるよう 目録を作成します。				
これまでの取組	市民ボランティアや大学等との協働により史料整理を行い、新たな史料の寄贈・寄 託を受け入れながら仮目録の作成を進めています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①史料整理数（累計）		42,000点	67,000点	
	②目録作成点数		0件	3件目着手	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	史料の寄贈・寄託の受入れ、史料整理				
	史料目録作成（1件目）		史料目録作成（2件目）		史料目録作 成（3件目）
	年度目標 （指標①）	47,000点	52,000点	57,000点	62,000点
年度目標 （指標②）	1件目 作成作業	1件目 作成完了	2件目 作成作業	2件目 作成完了	3件目 作成作業

<2022年度の事業実績>

達成状況 （指標①）	B 目標を達成した
取組状況 （指標①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ボランティアや大学等との協働作業などで史料整理を進め、計約6,400点の史料整理を行い、計約62,000点完了しました。</li> <li>・「浪江虔関係史料」、「野津田町・河井家文書」、「小川・細野家文書」、「相原・青木家文書」等の整理作業を進めています。</li> </ul>
達成状況 （指標②）	D 目標に達しなかった
取組状況 （指標②）	史料目録の作成については、目録を公表する方法を紙の刊行物からインターネット上のデジタルコンテンツとして発表する方法に変更しました。広く活用できるように公表の準備を進めています。
課題	今後も、市史編さん事業を見据え市域の重要史料の整理に取り組む必要があります。
今後の取組の 方向性	重要史料群（「野津田町・河井家文書」、「小川・細野家文書」、「小野路町・細野家文書」、「相原町・青木家文書」）の整理を優先的に行います。


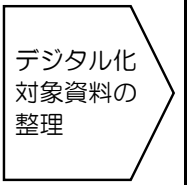
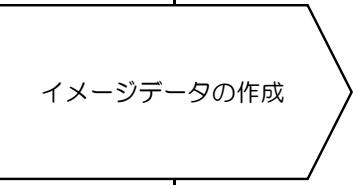
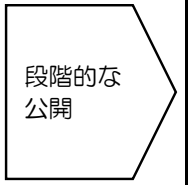
<b>■取組5-5 図書館利用者の利便性の向上</b>	図書館
-----------------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及、書籍のデジタル化により市民の読書スタイルは多様化しています。図書館に来館しなくても市民が読書をする機会が増えるよう、電子書籍の導入を目指します。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	電子書籍サービスの導入		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     先進事例の研究調査・ 補助金の調査・ 民間活力手法導入検討                 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     導入のための仕様作成と 実施に向けた準備                 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     実施                 </div>
年度目標	調査	検討	仕様作成	実施準備	実施

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年10月から電子書籍サービスを開始しました。</li> <li>・図書館で特集コーナーの開設、公共交通機関でのポスターの掲示や飲食店などで名刺サイズ広告の配布依頼など、電子書籍サービスをPRしました。</li> <li>・電子書籍サービスの利用促進のため、館内および出張して講座を実施しました。</li> <li>・館内貸出用タブレット端末を配備し、デジタル環境をお持ちでない方にも電子書籍サービスを利用可能にしました。</li> <li>・市内の小中学生に利用していただけるよう、小中学校との連携に向け担当部署と調整を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入直後のため電子書籍サービスの認知度を上げる必要があります。</li> <li>・電子書籍コンテンツが紙の図書と比較して高額かつ点数が少ないという現状があり、電子書籍の選書方針の検討が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面でPRを行うことで、電子書籍サービスを市民に広く周知します。</li> <li>・常に魅力的な蔵書構成にするような選書を行うだけでなく、特集を定期的に公開することで、利用を促進します。</li> </ul>

<b>■取組5-6 地域資料の活用の推進</b>	図書館
--------------------------	-----

事業概要	現在、紙の媒体で管理されている地域資料は、地域活動を行っていく上で重要な資料です。これらを積極的に活用できるよう、これまで蓄積してきた地域資料のデジタルアーカイブ*化を進めます。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	地域資料のデジタルアーカイブ化の推進		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
年度目標	検討	整理	データ作成	データ作成	実施

\*デジタルアーカイブ：電子図書館をはじめ、作品、文化財その他の情報をデジタル化して収集・保存・公開する活動や場の総称。

<2022年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ホームページ公開用の図書館資料の検討を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 紙の資料は時間や利用により劣化してゆくので、保存を急ぐ必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デジタル化して保存することにより後世にわたって提供できるよう、企業版ふるさと納税などの補助金を含めた財源について検討します。</li> </ul>

<b>■取組5-7 市民のニーズに合った図書館事業の実施</b>	図書館
----------------------------------	-----

事業概要	図書館全館で利用者アンケート調査を実施し、図書館利用者のニーズを把握して、図書館サービスの改善に役立てます。				
これまでの取組	図書館全館での利用者アンケートを2009年度から3回実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	図書館利用者アンケートの実施		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	アンケート 実施準備	アンケート 実施と公表	事業の評価と改善		次期 アンケート 実施準備
年度目標	検討	実施	活用	活用	検討

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度から導入した指定管理者制度の効果を検証するために、利用者アンケートを図書館全館で実施しました。</li> <li>・図書館を利用していない市民のニーズを把握するために「町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査」を実施しました。</li> <li>・図書館電子書籍サービス及び図書館ボランティアについて、町田市市政モニターに対するアンケートを実施しました。</li> <li>・これまでのアンケート調査で市民ニーズが高かった次のサービスを実施しました。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①鶴川駅前図書館で開館日時拡大やWi-Fiサービス提供、資料の消毒機設置を行いました。</li> <li>②10月から電子書籍サービスを始めました。</li> <li>③2月から中央図書館で電子書籍を閲覧できるタブレットの貸出を始めました。</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者アンケートや市民意識調査、市政モニターアンケートの結果から市民のニーズを検証し、図書館利用に結び付ける必要があります。</li> <li>・開館日時拡大やWi-Fiサービス提供、タブレット貸出などの新たなサービスが、幅広く市民に利用されているのか検証が必要です。</li> <li>・指定管理者による運営の効果の検証が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者による運営の効果検証に基づき、今後の運営体制を検討します。</li> <li>・検証結果に基づき、図書館利用の拡大につながる事業展開を検討します。</li> </ul>

事業概要	継続的に収集してきた町田市の文学的財産である町田ゆかりの作家の貴重な資料を、適切に整理・保存・研究し、研究の成果を広く市民が利用できるよう公開します。また、これまでに蓄積した情報や資料を継承していくための図録や目録等を作成します。				
これまでの取組	町田ゆかりの作家の資料を収集・保存・研究し、公開しています。毎年、展覧会の成果をまとめた図録を作成しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①貴重資料の公開回数		未実施	年4回	
	②図録や目録等の作成件数		1件	2件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	公開（試行）調査	検証・調査	公開・調査		
	図録等の刊行（年1件）				
			目録等の企画・検討	図録等の刊行（年2件）	
年度目標（指標①）	公開（試行）	検証	公開（年2回）	公開（年2回）	公開（年4回）
年度目標（指標②）	1件	1件	1件	2件	2件

<2022年度の事業実績>

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	・ 収蔵資料の公開を目的としたミニ展示として、森村誠一展、赤瀬川原平展、嶋岡展を実施しました。
達成状況（指標②）	D 目標に達しなかった
取組状況（指標②）	・ 「森田MiW展」では展示内容をまとめた冊子を会期中に販売したため、当館としては図録や資料集を作成しませんでした。「読む将のススメ展」では会期終了後に展覧会の記録（展覧会の内容や出品資料）が研究誌「将棋と文学スタディーズ」に掲載されました。
課題	・ 研究成果が紙媒体で保存されているため、データでの保存を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・ 研究成果のデジタル化、ホームページでの公開を検討します。

事業概要	町田市の文学的財産である町田ゆかりの作家の原稿、色紙、絵画等の特別資料を後世に残し、市民に継承できるよう適切に保存します。				
これまでの取組	町田ゆかりの作家の貴重図書や貴重雑誌、特別資料（原稿、色紙、絵画等）を収集し、整理、登録しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	特別資料の登録数（累計）		575点	1,450点	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	特別資料の収集				
	特別資料の整理・登録		整理計画の作成		特別資料の整理・登録
年度目標	850点	1,000点	1,150点	1,300点	1,450点

<2022年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度の休館中に資料整理に注力したことにより登録件数は1,955点になっています。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に資料整理・登録を行う必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的に資料整理・登録を行います。</li> </ul>